

各世代がつながる地域づくり
～これからの舞鶴版社会教育の仕組み～

令和4年2月22日

第31期舞鶴市社会教育委員会議

目次

はじめに	1
1 社会教育におけるつながりづくり	2
(1) 今日における世代間につながりづくりについて	2
(2) 今日につながりづくりの課題について	3
2 集いの場を拠点にしたつながりづくり	4
(1) 集いの場のあり方について	4
(2) 集いの場に関係する方々の意識の持ち方について	6
3 これからの集いの場における仕組みづくり	8
(1) 人と人をつないでいく仕組みについて	8
(2) 開かれた集いの場について	9
4 事例調査・アンケート調査からの考察	11
(1) 「夜久野地域公民館・和田公民館」事例調査	11
(2) 「学びの機会」「交流の機会」意識調査	13
(3) モデル事業の実践	19
おわりに	22
資料編	23

はじめに

近年、地域社会においては、少子高齢化に伴う人口減少、価値観の多様化などから、人と人のつながりが希薄化し、災害等が発生する度に地域社会における人との絆や、関わり合いの大切さが社会的課題として指摘されています。

昨今の自治体における地域づくり政策は、このような現状を踏まえた、安心安全な地域社会を構築するための取り組みが進んでいますが、その実現には、地域コミュニティの構築と学びを焦点とする、社会教育の基盤づくりが不可欠なものであると考えられています。

前期、第30期社会教育委員会議は、このような地域社会の背景を整理し、人がつながるためのきっかけ、人を育成するための重点等を示した、建議「人をつくり、地域を創造する生涯学習社会の推進～舞鶴版社会教育のあり方～」を作成し、今後の社会教育を基盤とした「地域づくり・人づくり」のための指針として位置付けることとしました。

それらを踏まえ、今期、第31期社会教育委員会議は、前期建議を実行し、生き生きと心豊かに生活できる社会基盤を構築していくために必要な、社会教育・生涯学習を通じた学びとは何か、住民が集い、活動し、相互に良い関係を築きながら、つながりを創り出す集いの場のあるべき姿とはどのようなものなのか、また、その仕組みづくり等について具体的な方策を議論していくことが必要であると考えました。

社会教育を基盤とした地域づくりは、今後、益々重要になってくると思われることから、人々が集う拠点機能の重要性や、人と人をつなげる人材の育成も大きく期待されています。このたびの建議は、人々がつながり、人が育成されていく集いの場に焦点をあて、そのあるべき姿を分析し、方向性、仕掛けづくりなど白熱する議論のなかで真剣に各委員が取り組んでまいりました。

本建議を「地域づくり・人づくり」のために社会教育行政としての実行計画として受け止めていただき、また、本市の多くの社会教育関係者や地域で活躍する実践者等で共有されながら、多くの人の手で舞鶴市社会教育の一層の充実と地域社会の活性化に向けた取り組みが推進されることを期待するものであります。

舞鶴市第31期社会教育委員会議
会長 福原 習作

近年の地域社会においては、少子高齢化による人口減少、地域コミュニティの衰退などから生じる人と人とのつながりの希薄化など、様々な地域課題が指摘されています。今後、より複雑化する課題を解決し、豊かな地域社会を創造するためには、住民自らが担い手として、その課題に向き合い主体的に関わっていくことが必要と考えます。そのためには、一人ひとりが学びを通じて成長し、他者と良い関係を築きながら、その成果を地域へ還元できる社会を実現することが必要になると考えます。

社会教育は、その学びを通じ個人の成長を促し、他者と学び合い、認め合いながら、つながりを形成していくものであることがその特徴と考えます。中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」（平成30年12月21日）では、今後の社会教育のあり方として、住民が関心をきっかけに、学びの場へ参加することで前向きな地域の活力を生み出すこと、学びの場での住民のつながりや相互承認の関係は、豊かな地域コミュニティの基盤となること、住民のつながりの中で、人々の主体性が基盤となり持続可能なものになるという効果が期待されるとまとめています。

舞鶴市社会教育は、第30期社会教育委員会議建議「人をつくり、地域を創造する生涯学習社会の推進～舞鶴版社会教育のあり方～」において、地域の現状と課題を整理し、社会教育の学びを、地域づくり・人づくりに生かしていくことをまとめ、今後の地域づくり・人づくりのための指針とすることとしました。

この建議を地域社会において実践していくためには、各世代が繰り返し関わることで、伝え受け継ぎながら世代が世代を育てることが重要であり、その中心となるものが、学びの場を拠点にした住民相互のつながりづくりではないかと考えます。

(1) 今日における世代間のつながりづくりについて

○現在、社会教育の取り組みについて全国的にどのような内容が評価されているのかを把握するため、優良公民館表彰に関する資料を分析しました。具体的には、2018年度の第71回優良公民館表彰の資料に記載されている「公民館の概要」、2019年度の第72回優良公民館表彰の資料に記載されている「審査委員評価コメント」について、どのような文言が多く使用されていたのかテキストマイニングという手法を用いて分析を行いました（資料編参照）。

○その結果、全国の優良公民館表彰において評価される対象として、2018年までは、世代間交流や住民の主体的な学びを支援することで、住民自身の地域課題に対する解決促進、学びを通じた健康増進、生きがいや新しい仲間を持つといった、自らの居場所づくりへの取り組みが評価されてきました。

○2019年の評価対象としては、更なる多世代交流の拡大、とりわけ、小学生、中学生が地域行事で活躍できる場の提供、若い世代の地域参画、子どもと高齢者を結びつける取り組み、学校と地域、様々な団体と連携した地域づくり、住民アンケート調査などの活用、多様な世代や団体等と連携、交流しながら地域人材の育成につなげていくことが評価されてきています。

○以上のことから、優良公民館表彰における評価傾向は、多世代交流を通じ、幼いころから様々な世代と交流し、地域行事などで若い世代に活躍の場や社会的役割を与えることで、自己肯定感や地域帰属意識を醸成し、各世代を巻き込んだ地域コミュニティの活性化につなげていくものが期待されていると考えられます。

(2) 今日のつながりづくりの課題について

○世代間のつながりは、各世代が関わり続けて創られていくものと考えます。そのためには、個々が自立して動き出すための仕掛けが必要になります。私たちが考える自立とは、各世代が地域社会の中で、他者や物事に関心を持ちながら、自主的に関わり、生きていくという意味であると考えます。

○地域社会の基盤は、地縁・血縁、会社など利益共同体の他に、サークル活動、文化的趣向など興味・関心をきっかけに緩やかにつながりを持てるものもあります。そこでは、他者と協働しながら、認められているという肯定感などを得ながら、役割や出番、楽しさを生み出し、つながることができると考えられることから、この様なつながり方も増やしていく必要があると考えます。

○世代交代がうまくできている事例では、様々な世代の考え方などを柔軟に取り入れている例が多いことから、多様な世代が活動しやすい環境を徐々に構築していくことが、次世代継承につながるのではないかと考えます。

○また、地域社会のなかでの積極的な活動が期待される現役世代の社会参画を促進する意味でも、アンケート調査等でニーズ把握や、これまでから社会参画する人の行動分析をするなど、現役世代を巻き込みやすい環境をつくることが、

今後必要ではないかと考えます。

2

集いの場を拠点にしたつながりづくり

近年の地域社会においては、少子高齢化の進行に伴い、家族構成などその形態も変容するなか、個人の価値観は多様化し、人のつながりが希薄化していると言われてしています。

住民自治という意味においては、これまでからお互いの顔が見える場で対話し、他者とともに支え合いながら、地域社会を創り上げてきました。その拠点となるのは人が集う場であり、その拠点の活性化が地域社会の発展につながるものと考えます。

社会の変化に伴い、集いの場は、その形態も変化していくものですが、人が集う場は、その大きさに関係なく、ある種のコミュニティが形成されるところから、その空間に、意義やあり方を見出し共有することが大切であると考えます。

(1) 集いの場のあり方について

人の集いは、一つの社会を創り出すことにつながると考えられます。しかもその営みは、緩やかさのなかで、交流が繰り返されることで、自らを動かす原動力になり、まちの活性化につながるのではないかと考えます。そのような地域社会を創り出すため、集いの場とは次のような役割を持ち、人が育成されていくことを認識し共有することが大切であり、小さくてもそのような場づくりをするにその本質があると考えます。

集いの場のあり方

① 「結ぶ」 個人と社会をつなぐ場

人のつながりは、関心を持ちながら集い、楽しさや共感を得ることで、最初は小さな関係づくりから始まり、やがて一つの社会が形成されていくのではないかと考えます。

また、その様な場では、今まで出会うことのなかった多種多様な背景を持った人達がつながり、やがて自分の居場所を見つけられることにもつながるのではないかと考えます。

② 「育つ」 自己の成長が得られる場

人が集う場では、交流、協働などを通じて、知恵が生まれたり、コミュニケーションや人と人の関わり方、多様性など様々なことを学び、自己の成長につなげ、内面的にも充実感を得ることができるものと考えことから、集いの場は、人が成長するきっかけになるものと考えます。

③ 「創る」 自身が当事者になる場

人が集う場では、皆で協力しながら新たな活動を形にし、何かを生み出す可能性を秘めていると考えます。例えば、参加、体験型の集いでは、お互いが認め合い、受け入れ、役割を得ながら、他者に依存することなく自らの価値を創出することで、単なる参加者から始まった活動が、気が付けば自身がリーダーもしくはフォロワーとしての感覚と意識を持てる場につながり、少しずつ自立した人材が育成されていくものと考えます。

(2) 集いの場に関係する方々の意識の持ち方について

これまで、集いの場のあり方、役割について議論してきましたが、どれだけ素晴らしい機能を持った集いの場であっても、どれだけそこに人が集い、学びの仕掛けが講じられていたとしても、集いの場に携わる人材が熱意を持ち、そこに集う人達をつなげるために動かなければ何も生まれないと考えます。人が成長するのが人の輪の中であるとしたら、人を育てるのもまた人であると考えます。そういう意味では、集いの場に携わる人材に求められる役割は重要であると考えます。

以上のことから、集いの場に関係する方々の持つべき意識を次のように定義するとともに、そのような意識を持てる人材を育成し、そこに携わることの大切さを自覚することが大切であると考えます。

① 目的を持ち、思いを持つこと

集いの場に関係する方々の意識の持ち方としては、そこに集う人たちが将来どうなってほしいのか、どんなことを伝えたいのかなど、そこに長期的な目標を持ち、思いを持つこと、また、そのことを自身の喜びにすることが、集う人達を成長させていくためには欠かせないのではないかと考えます。そして、関係する方々皆でその思いを共有し、同じ方向を目指すことが、後継者を育成することにもつながるのだと考えます。

② 言葉を紡ぎ、縁を築くこと

人のつながりは、どの様な形にせよ、縁が重要であると考えます。そのためには、コミュニケーションなど会話が重要で、親しみを感じまた次も訪れたくなるという感情は、そこで生まれる嬉しさ、安心感、楽しさなどではないかと考えます。むしろ、本当に嬉しいや楽しいという感覚は、集う人たちとの達成感、認められているという肯定感、相互承認などが重なり合うことで生まれてくる社会的なものではないでしょうか。このような嬉しさや楽しさを覚えてしまうと、また次も何かをやってみたくなる、これが次に人を動かす原動力となると考えることから、言葉が紡ぐ縁はとても重要であると考えます。

③ 社会と人をつなぎ、育て見守ること

集う人達の主体的な行動を生む原動力は、上記のような小さな関係作りから始まると考えます。この関係性を必要以上に拡大したり、無計画に結びつけてしまうと、独自性がなくなり、価値観など異なるものを排除したり、かえって消滅してしまうことにもつながりかねません。あまり急がず、楽しさを覚えた人達が、緩やかに関心を持ちながら、新たにやりたいことがあれば、次のグループを創り、活動を継続させていくのを支え見守り、コーディネートしながら、大きな社会につなげていくことが重要ではないかと考えます。

第31期社会教育委員会議は、公民館などの優良事例調査における実践者との意見交換、30代から50代を対象にした市民アンケート調査の分析などをもとに、今後も、その時に順応した集いの場を沢山創り、継続させ、より活性化させていくための仕組みづくり、あり方について以下のとおり考えるものです。

(1) 人と人をつないでいく仕組みについて

①居心地の良い場所をつくる

近年の地域社会では人のつながりが希薄化していると言われています。その様な状況下で人の交流を促進させるためには、集いの場での地域住民の様子や活動状況を可視化し、また、積極的にコミュニケーションを取るなど、まずは、誰でも立ち寄りやすく、参加者の負担を軽減しながら、気軽に日常的な交流を促進する社会基盤を実現させていく工夫が必要と考えます。

②地元を知って皆に伝える

人が興味や関心を持ち、気軽に足を運びたいと思えるためには、そこで行われている催しや参加者の活躍する様子が常に伝わるよう情報を発信していくことが必要です。年代に応じたSNS等を駆使し、またITが苦手な世代には積極的に地域に入り会話により情報を伝え、そこで得られた情報などをSNS等で更に拡散していくことで、多くの世代に地域の人や、様子などを伝え、少しでも興味関心を持ってもらうことが重要だと考えます。

③皆が望んでいるものを知る

集いの場の関係者は、多様化するニーズに対応するために、地域に溶け込み会話する中で、住民ニーズを捉えていくこと、また、定期的にアンケート調査等を実施しながら、各世代のニーズや現状、行動把握等、その傾向などを掴みながら、多様な世代を取り込むためのアイディアに生かし、催しなどにつなげていくことで、満足度を与え、リピーターを増やしていくことが重要であると考えます。

④新しい技術を使う

コロナ禍においては、顔を合わせたリアルな交流が難しくなっています。しかし、そういう時にこそ情報技術を駆使し、オンラインによる交流を実施することで、新たなつながり方を発見できる可能性があると考えます。全てのつながりづくりがオンラインで実現できるとは限りませんが、状況に応じて使い分けていくことが、人のつながりを継続させていく方法であると考えます。

(2) 開かれた集いの場について

①色々な人と協力する

○地域社会では、地域課題やニーズが複雑多様化、専門化しています。それら様々な課題に対応するためには、地域を熟知する人、専門的な知識を持つ人など様々な人との連携が必要になると考えます。

○各世代がつながり、地域を活性化するためには、地域の現状と課題を把握し、斬新な発想と企画力が必要になると思いますが、個人の力では限界があり、いずれは行き詰まることが予想されます。昨今では、NPO や社会教育団体、高等教育機関、市民活動をする団体等様々な団体が地域課題の解決に取り組んでいることから、その様な団体と積極的に連携・協働し、効果的な手法を取り入れ、時には、集いの場の関係者はその団体をつなげ、コーディネートし、課題解決にあたり相乗効果を得ることが必要だと考えます。そして、それが当たり前になることができれば可能性が広がるのではないかと考えます。

○また、近年では、定年退職後も再任用等で働く期間が延長され、なかなか地域に戻ってこられない忙しい世代が増えています。人生100年時代を迎えようとしている現代では、元気な高齢者、現役を引退した特に70代世代の活躍が期待されることから、この世代を積極的に地域活動に誘い協働していくことも必要であると考えます。

②心が通い合う集いをつくる

○地域には、これまで培ってきた技術や知識、経験を持つ人、様々な人脈を持つ人、人づくりに情熱を持つ人など多くの住民が存在していると考えます。今後は、そういった人材を例えば公募などで集いの場に配置し、周りに良い影響

を与えながら、全体的な人材資質の向上につなげて相乗効果を得る必要があると考えます。また、様々な「学び」を地域社会のいたるところに仕掛け、地域課題の解決へと導き、地域づくりの展開をコーディネートする専門職である「社会教育士」の存在も大きな役割を果たすと言われていています。このような人材を若いうちから育成し配置することで、将来を見据えた地域コミュニティの活性化につながるのではないかと考えます。

○集いの場では、今まで述べてきたように、集いの場のあり方を熟知し、人づくりに熱意ある人材を配置していくことが重要であると考えことから、そこに配置する人材は、研修などで十分そのことを学び、実践していくことで集いの場の活性化につなげていけるのではないかと考えます。

③集う人達の特徴を知る

○集いの場の役割は、これまで述べてきたように、住民が集い、ゆるやかな輪の中で活動が始まり、大小に関係なくコミュニティが生まれ、学びを得ることで人が成長するきっかけになる、つまり人づくりの拠点であると考えます。

○近年では、コロナ禍において以前とは異なる生活スタイルを余儀なくされ、気軽に集うことが難しくなっていると思われます。しかし、このような状況において、それでも集う人達は、集うことにどの様な価値を見出し、その効果があるのか、その過程が大切なのではないかと考えます。

○以上のことから、集いの場について考察する場合、そこで集う人達は、集うことでどの様に成長しているのか、そしてそれがどの様な効果を生じさせているのかを分析することで、集いの場に参画しない人を誘い、活性化へのきっかけにすることが重要ではないかと考えます。

今回、第31期社会教育委員会議は、建議内容をより充実させるため、実践者との意見交換や住民アンケート調査の分析結果をもとに考察し、今後の舞鶴版社会教育の仕組み、あり方に生かすこととしました。調査内容、分析結果は以下の通りです。

(1)

「夜久野地域公民館・和田公民館」事例調査

① 人が集う仕組みについて

○両公民館では、公民館事業をSNS、館内展示、ホームページ、チラシ等を駆使し、そこで活躍する住民の活動状況を様々な機会を利用し情報発信されてきました。こまめな情報発信をすることで、それを目にする住民は、事業や他住民の活動に徐々に興味を持ち、それが新たな参加者の獲得につながっていることから、これまで以上活動に積極的になれているのではないかと考えられます。

○和田公民館では、公民館事業の他にも地域の行事、催し、住民、季節の変化など、館長が地域に溶け込み、些細なことでも情報発信がされていました。地域に入り込むことで、住民の声を直接聞き、そのことを情報発信することで、地域住民は地域のことに興味を持ち、更には、公民館職員と地域住民のつながりを深めるきっかけが生まれやすくなるのではと考えられます。

○両公民館は、自分達で実施するのが難しいと思える事業でも、それを可能にする人材を探し協働で実施していくなど、常に外部を取り込み、広く連携しながら目的とする事業が実施されていました。そうやって外部を取り込むことで、困難と思われた企画が実現でき、魅力ある公民館事業による面白いまちにつながっていくのではと考えられます。

○また、公民館で活動する住民の状況などが見えるよう、会館を開放的にするなど常に可視化され、参加者や来館者には、積極的に声掛けするなど気持ち良くコミュニケーションが取られていました。そうすることで、また次も来たくなるような気軽に集いやすい工夫がされていました。

◇社会教育委員会議での意見交換内容は下記のとおり

- ・素晴らしい環境のなかでやっている
- ・SNS を駆使したこまめな情報発信で、公民館を知るきっかけづくりが施されている。
- ・情報の内容が、公民館事業に限らず、地域の人、行事、季節の変化など、些細なことでも発信されている。
- ・自分ができなくても、できる人を巻き込みながら実施されている。
- ・SNS が不得意な世代にも直接会話し、情報を伝え、ニーズを掴みとれている。(SNS と会話の両輪)
- ・利用者、訪問する人への声掛けにより人を寄せ付けている。
- ・どういう人が会館を利用し、どんな人が活躍されているか展示などで可視化されている。
- ・講座等がいつでも見えるよう、部屋や窓を開け気軽に可視化されている。
- ・利用者の声など、質的なデータが取られ事業に生かされている。
- ・休憩場所などは、利用者が気軽に集えるよう動線を考えた仕組みが施されている。
- ・集いやすいゆるやかな入口づくりが工夫されている。

② 公民館職員について

○両公民館の館長、職員は、住民のための公民館としての役割を考え、常に参加者の将来像を見据えながら、その事業に価値を付加し、情熱と思いを抱きながら事業を実施されていきました。そういう思いを持つ関係者のもとに集う参加者は、より楽しく生き生きとした活動と、学びによる成長のなかで、参加して良かった、また次も来てみたいと思える人が増え、自身の活動にさらに興味関心を持つようになるのではと考えられます。

○また、SNS の他にも常に住民と会話し、多様化するニーズを捉えながら、事業実施のためのアイデアに生かしていました。住民の声を聞き、それを事業に生かすことで、自らのニーズが満たされ住民の満足感を得ることができ、職員と住民のつながりが生まれるのではないかと考えられます。事業成功のカギは、社会の変化に応じたニーズをいかに実現していくかということと、館長や職員の情熱、熱意にあると考えられます。

○両公民館の館長は、住民と住民をつなぐコーディネート役が自分の役割であると捉え、人のつながりを大切に思う館長でした。そして、参加者や来館者に声をかけ、集いやすい雰囲気醸し出していました。そうすることで、人はまたそこへ寄りたくなるのではないかと、そうやって人のつながりが生まれるのではないかと考えられます。

◇社会教育委員会議での意見交換内容は下記のとおり

- ・人と人をつなげようという愛情がある。
- ・良いことは沢山のの人に広げたいという思いを持っている。
- ・外部を巻き込むなど、つながりを大切にしている。
- ・地域性もあるが、住民からも協力を得るなど、フォロワーを育成している。
- ・失敗してもクヨクヨせず、次を向いて考えている。
- ・館長と職員の関係が、仲間、チーム感という印象がある。
- ・目標設定を明確にして事業を実施している。
- ・手作感満載で、職員の住民に対する思いを感じる。
- ・事業には知恵と勇気が盛り込まれている。
- ・役割を与え ICT 習得のための研修をするなど人材を育成している。

(2) 「学びの機会」「交流の機会」意識調査

舞鶴市社会教育は、様々なニーズに対応し、社会の変化に対応した人づくり・地域づくりを進めるにあたり、特に30代から50代の住民にアンケート調査を実施しました。アンケート調査の目的は、複雑に多様化した現代社会において、多様な世代の積極的な社会参画を促進させ、少しでも多くの方が、各世代と関わりながら、地域に興味関心、誇りを持てる人材を育成するためにはどうしたら良いかを考察するためのものです。アンケート用紙には全部で質問1～質問17までを記載しましたが、その分析結果について特に重要な点を抜粋し以下にまとめました。

<配布・回収方法>

①市民への郵送によるアンケート用紙の配布・回収

- …舞鶴市在住の30～50代の市民から1000名をランダムサンプリングし、アンケート用紙を郵送し、アンケート調査の協力を依頼。
- …アンケート用紙に返送用封筒を同封し、郵送にてアンケート用紙を回収。
- …1000通郵送し、359件の回答を得た（回収率：35.9%）。

②舞鶴市職員へのアンケート用紙の配布・回収

- …舞鶴市役所の30～50代の職員を対象に、アンケート用紙を配布し、アンケート調査の協力を依頼。
- …舞鶴市役所の各部署にアンケート用紙を配布し、部署ごとにアンケート調子を回収。
- …638通配布し、521件の回答を得た（回収率：81.7%）

＜市民講座やサークル活動等にどの時間帯が最も参加しやすいか＞

○「あなたが市民講座やサークル活動等に参加するとしたらどの時間帯が最も参加しやすいですか。平日で1つ以上、土日で1つ以上、それぞれ○を付けてください。」と質問したところ、土日においては「土曜日の午前中」が最も参加しやすいという結果になり、平日においては「金曜日の18～21時」の時間帯が最も参加しやすいという結果となりました。

○平日の曜日だけで見ると、市民向けのアンケートでは金曜日の回答が最も多く、次いで水曜日という結果になり、市職員向けのアンケートでは金曜日の回答が最も多く、次いで木曜日という結果となりました。

○市民講座やサークル活動等に参加しやすい時間帯の回答結果をまとめたものが以下の図表です。

市民（郵送）							
	月	火	水	木	金	土	日
午前中	26	28	31	29	25	121	99
12～18時	11	12	14	13	9	71	51
18～21時	32	42	53	43	82	47	21
21時以降	14	17	20	12	34	24	8
合計	83	99	118	97	150	263	179

市職員（庁舎内配布）							
	月	火	水	木	金	土	日
午前中	16	8	17	10	11	190	122
12～18時	4	5	7	7	3	139	77
18～21時	66	105	79	138	161	95	43
21時以降	20	21	19	29	43	25	14
合計	106	139	122	184	218	449	256

○さらに年齢別に傾向を分析してみると、「35～39歳」「40～44歳」の年齢層が参加しやすい時間帯として「午前中」と回答した割合が高いことが分かりました。また、その年齢層で「午前中」と回答した人の大半が女性であり、学齢期の子どもを持つ主婦層が、平日の午前中が参加しやすいと回答する傾向にあります。

＜どのような市民講座やサークル活動に参加したいと思うか＞

○「以下の市民講座やサークル活動等について、それぞれどの程度参加したいと思うか、最も当てはまる数字を1～6のうちから1つ選び○を付けてください。」という質問を設定し、次の13項目についてそれぞれ回答を得ました。

(1) 球技（野球、サッカー、バレー等）を行う教室・サークル
(2) 陸上、水泳競技を行う教室・サークル
(3) アウトドア（キャンプ、BBQ、マンスポーツ等）を行う教室・サークル
(4) アナログゲーム（将棋、カード、ボードゲーム等）を行う教室・サークル
(5) デジタルゲームを行う教室・サークル
(6) 手芸や工作を行う教室・サークル
(7) 文芸活動（読書、俳句等）を行う教室・サークル
(8) 情報機器（電子工作、プログラミング等）を取り扱う教室・サークル
(9) 歴史・文化について学ぶ教室・講座
(10) 健康づくりについて学ぶ教室・講座
(11) 防災について学ぶ教室・講座
(12) 子育てについて学ぶ教室・講座
(13) 地域振興や地域おこしについて学ぶ教室・講座

○この結果として、市民向けのアンケートでは「(10) 健康づくりについて学ぶ教室・講座」「(3) アウトドア（キャンプ、BBQ、マンスポーツ等）を行う教室・サークル」「(6) 手芸や工作を行う教室・サークル」の順に人気であり、市職員向けのアンケートでは「(3) アウトドア（キャンプ、BBQ、マンスポーツ等）を行う教室・サークル」「(10) 健康づくりについて学ぶ教室・講座」「(11) 防災について学ぶ教室・講座」の順に人気となりました。

○参加したいと思う市民講座やサークル活動の内容について、その回答結果をまとめたものが以下の図表です。

市民（郵送）	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)
全く当てはまらない	150	180	109	180	213	100	174	158	128	78	85	106	107
1	59	73	48	76	71	55	86	72	61	46	59	63	72
2	46	44	58	47	24	46	40	40	60	60	77	62	76
3	46	23	60	22	16	66	23	28	49	87	77	58	53
4	24	12	39	13	9	45	11	25	28	51	31	32	18
5	18	7	27	2	4	26	5	17	13	21	12	20	14
とても当てはまる	6	16	20	18	19	22	21	20	19	20	16	18	19
無回答・無効回答	16	20	18	19	22	21	20	19	20	16	18	18	19
平均値	2.38	1.92	2.86	1.88	1.66	2.94	1.90	2.24	2.49	3.15	2.84	2.73	2.54
不偏標準偏差	1.56	1.26	1.66	1.16	1.10	1.66	1.19	1.52	1.50	1.56	1.43	1.56	1.42

市職員（庁舎内配布）	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)
全く当てはまらない	196	226	141	227	248	171	228	191	148	110	140	177	154
1	88	111	86	132	127	111	135	110	113	107	112	113	122
2	71	79	88	79	82	83	76	87	107	112	103	103	127
3	75	51	98	36	27	74	35	63	69	105	99	60	57
4	38	19	55	13	9	42	16	33	45	49	32	30	27
5	30	12	31	9	4	16	6	11	14	14	11	13	10
とても当てはまる	6												
無回答・無効回答	23	23	22	25	24	24	25	26	25	24	24	25	24
平均値	2.52	2.12	2.87	2.00	1.86	2.50	1.98	2.33	2.58	2.84	2.61	2.38	2.42
不偏標準偏差	1.59	1.32	1.58	1.20	1.08	1.46	1.18	1.39	1.42	1.39	1.36	1.37	1.29

○さらに、性別・年齢別にて回答の傾向を見てみると、男性においては、概ねどの年代においても「アウトドア」に関する関心が高く、若い層は「子育て」について、50代以上については「歴史・文化」「健康づくり」への関心が高いようです。一方、女性は、概ねどの年代においても「手芸や工作」と「健康づくり」への関心が高く、若い層は「子育て」「防災」「アウトドア」への関心も高いということが分かりました。

<地域社会に関する意識について>

○「地域社会への意識や、地域との関わり方について、以下の各設問において最も当てはまると思う数字を1～6の中から1つ選んで○を付けてください。」という質問を設定し、次の10項目についてそれぞれ回答を得ました。また、その結果が以下の図表の通りです。

(1) 舞鶴市は魅力的なまちだと思う
(2) 地域の住民と交流する機会がある
(3) 地域社会の中に気軽に相談できる人がいる
(4) 災害時に近隣住民と助け合える関係性を築いていると思う
(5) 自治会活動などの地域活動には参加している方だと思う
(6) 近隣地域で同じ趣味を持った仲間・友人がほしいと思う
(7) 地域関係なくオンラインで繋がれる仲間・友人がほしいと思う
(8) 近隣地域で身近に助け合える人間関係を築きたいと思う
(9) 地域の子どもへの教育活動に関わってみたいと思う
(10) 地域の障がい者支援に関わってみたいと思う

市民（郵送）	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
そう思わない 1	48	60	76	67	82	52	84	24	64	62
2	58	90	84	87	60	59	86	30	64	92
3	106	90	78	83	71	79	81	80	95	78
4	87	63	59	64	65	72	50	84	72	65
5	33	30	34	35	47	54	30	82	33	29
とてもそう思う 6	18	15	20	13	25	33	19	50	21	18
無回答・無効回答	9	10	8	10	9	9	9	9	10	9
平均値	3.15	2.88	2.86	2.86	3.03	3.38	2.75	3.91	3.03	2.84
不偏標準偏差	1.34	1.36	1.47	1.39	1.57	1.80	1.46	1.41	1.43	1.44

市職員（庁舎内配布）	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
そう思わない 1	46	50	87	61	68	69	108	31	72	84
2	67	96	110	97	74	81	110	41	99	107
3	118	145	142	149	105	124	129	111	142	166
4	153	144	105	129	119	117	95	163	116	107
5	93	53	41	51	92	77	40	106	48	27
とてもそう思う 6	31	19	22	18	48	38	21	54	27	12
無回答・無効回答	13	14	14	16	15	15	18	15	17	17
平均値	3.54	3.22	2.94	3.13	3.47	3.33	2.83	3.86	3.10	2.84
不偏標準偏差	1.34	1.26	1.35	1.28	1.51	1.46	1.39	1.31	1.36	1.23

○この回答結果について性別・年齢別に分析をしてみると、男女どの年齢層においても「(8) 近隣地域で身近に助け合える人間関係を築きたいと思う」について関心が高く、身近に助け合える人間関係の重要性を認識していることがうかがえました。しかしながら、実際に地域住民と交流する機会があったり、助け合える関係性を築いてると思うかという質問に対しては、否定的な回答が多く、近隣地域で人間関係を築くことが必要と思いつつも、自発的な交流の機会の構築には至っていない現状がうかがえ、外からの何らかのきっかけづくりが重要であると考えられます。

<「舞鶴市に魅力を感じる」と回答する人の傾向>

○「舞鶴市に魅力を感じるか」という質問に対して肯定的な回答を行った人が、これまでどのような経験をしてきた傾向にあるのか分析を行いました。

○その結果、住民が舞鶴市に魅力を感じているかどうかについては、「市外に居住経験があり」「学生時代に友人と外で遊んだり」「友人とおしゃべりをしてすごしていたり」「家族以外の大人と交流する機会があったり」「学生時代から地元地域は魅力的なまちだと思っていた」人ほど、舞鶴市に魅力を感じる傾向にあるということが分かりました。

○この結果から、舞鶴での生活について家族関係だけの閉じられた人間関係ではなく、他者との交流が頻繁にある人ほど地元地域に魅力を感じる傾向があると考えられます。特に、「市外での居住経験」が最も影響力が強く、舞鶴以外の地域での生活を知っており、その地域との比較を通してより舞鶴の魅力を認識することが可能になるとも考えられます。いずれにせよ、地域を支える人材を育成するにあたっては、世代を超えた多様な人々との交流をうながすとともに、他地域の現状についても情報を収集できるような環境が重要であるということが分かりました。

(2) モデル事業の実践

社会教育委員モデル事業

令和3年10月20日実施

目的：子どもから高齢者まで、ゆるやかさのなかで、幅広い世代がつながりを持てるよう交流促進を図り、第31期社会教育委員会議建議「各世代がつながる地域づくり～これからの舞鶴版社会教育の仕組み～」の実践につながるようなモデル事業とする。

参加者

0歳から80歳まで48名参加

- 朝来地域住民
- 朝来幼稚園児年長組
- こそだてひろば「ひまわり」参加親子
- 社会教育委員

場所

舞鶴市青葉山ろく公園内
 グリーンスポーツセンター ログハウス周辺、宿泊棟内
 社会教育モデル事業 × まちづくりサポートクラブ
 子育て支援事業

○スケジュール

9:30 10:30 11:00 12:00

準備等	園児、地域住民 自由交流	宿泊棟	参加者交流 読み聞かせ ミニ演奏会	モデル事業 終了
-----	-----------------	-----	-------------------------	-------------

まちづくりサポートクラブ ログハウス内 親と子の広場「ひまわり」開始
 子育て支援事業 周辺 演奏、シャボン玉、七輪焼、野外遊び等実施



- ① 10時30分 ・親と子の広場「ひまわり」（子育て支援事業）
参加者受付開始、シャボン玉、七輪焼開始
- ・朝来園児集合
- ・地域住民集合
- ② 11時00分 宿泊棟 参加者全体交流、読み聞かせ、ミニ演奏会
- ③ 12時00分 社会教育モデル事業終了

お楽しみ会までの自由時間（宿泊棟及び周辺）



幼児、園児への読み聞かせ



ミニ演奏会（自由交流）

自己紹介



肩たたき交流

演奏会



自分で動き出す

自然に歌い出す



終了後交流



まちづくりサポートクラブ子育て支援事業
親と子の広場「ひまわり」（おでかけひまわり@青葉山ろく公園）

参加者同士シャボン玉遊び



七輪で焼き焼き



癒しの音楽



<社会教育モデル事業を終えて>

社会教育モデル事業では、ゆるやかにつながることをテーマに、なんとなく始まり、なんとなく人が集まりながら実施しました。

(社会教育委員会議意見)

- ・ミニ演奏会では、皆が楽しそうに歌い出し、音楽をきっかけの一つになれた。
音楽は人をつなぐのは本当だった。
- ・演奏に合わせて、手話で歌い、肩たたきなど織り交ぜた結果、更に交流が深まった。
- ・それぞれで活動する分野を持ち寄りながら、一つのものが出来たことは意義があった。
- ・読み聞かせ、演奏会など皆で一緒にすることでスタッフ同士のつながりも深まった。
- ・皆が何かをきっかけに集まり、一つのことをすることは盛り上がる。
- ・ゆくりと行う事業の中で、自分で動き出し、人と会話し、協力することが形に見えた。
- ・楽しさのなかで人は動くことがわかった、自分も楽しくなければ人は動かないと思った。
- ・天候が悪かったので仕方ないが、もう少し地域住民と屋外でも交流できれば良かった。

<まとめ>

今回実施した社会教育モデル事業は、舞鶴版社会教育基本理念「ゆるやかに人がつながる地域社会」を実現するため、その拠点となる集いの場で議論してきた内容を実践検証し、今後のモデル事業にさせていただくことを目的に実施しました。

モデル事業では、きっちりした型にはめないプログラムで、ゆるやかな雰囲気の中、音楽演奏や読み聞かせをし、小さな関係づくりから始まり、人と人がつながっていくことが実現されたように思います。参加者は、楽しさの中で自由に歌い、自ら行動し会話が弾み、また、関係者相互でも、例えば打ち合わせのなかで会話することで、相手を今までよりも深く知り、協働して一つの事業を創り上げることが出来たように思います。参加者全員が他の参加者一人一人と交流できるような環境づくりという面では課題が残りましたが、このような雰囲気の中で、つながることができたのは、楽しさが人を動かしていること、当事業運営関係者のコーディネート力や熱意であったと思います。

以上のことから、人が集う場では、集いの場のあり方で述べた、①個人と社会をつなぐ場、②自己の成長が得られる場、③自身が当事者になる場という役割が実現されることが実証できたのではないかと考えます。そして重要なことは、参加者に楽しんでもらい事業を成功させようという関係者の想いや熱意が、良い結果につながったのではないかと考えると、関係する方々の役割は非常に大切に、そのような人材が求められていることも実証できたのではないかと考えます。そして、ゆるやかさの中においては、参加者が負担を感じず、楽しさを得て、主体的に行動する原動力につながるのではないかと考えます。

おわりに

○第31期社会教育委員会議は、前期社会教育委員会議の建議「人をつくり、地域を創造する生涯学習社会の推進」を実践し、各世代がつながる地域社会を創造するための議論をしてきました。そのテーマの大きさと重要性から、今期会議では、福知山市夜久野地域公民館長を招いての講演、高浜町和田公民館への視察、アンケート調査の分析、舞鶴市公民館長との合同会議など、実際に見て、聞いて、感じながら研究し、実に充実した議論を深めてまいりました。

○地域社会においては、地縁・血縁を基盤とした団体が地域コミュニティの中心でありましたが、近年における人口減少と少子高齢化、価値観の多様化などから、加入率の低下や組織の解体、人々の無関心から生じる希薄化の進行等により、住民がそのネットワークから孤立していると言われていています。その様な状況のなかで、社会教育は、人と人とを紡ぐ固有の社会基盤となるものであり、その拠点となるのが集いの場であると考えました。

○人と人をつなぐものは、地縁・血縁の他にも個人の興味関心、趣味など様々で、それらは、孤立しがちな人々を社会とつなぎ、ゆるやかなつながりを創り出すことができるセーフティネットであると考えます。そして、そのプロセスこそが、小さな社会を沢山創り出し、ぼんやりとつながりながら、人を成長させ、まちの活性化につながっていくのではないかと考えます。社会の変化により人々のニーズなども多様化しますが、そこに対応できるのは、結局は人の熱意、想いであり、その重要な役割を担うのが、集いの場に関係する方々であることを再認識し、今回建議での人材像として共有することが重要であるとの結論に至りました。

○今後は、各世代がつながる地域社会を創造していくため、その時に応じた取り組みが進んでいかななくてはなりません。舞鶴市では、公民館など各拠点施設、とりわけ令和3年度新設された、多世代交流施設「まなびむ」を中心に、各世代のつながりづくりが推進されていくものと推察しますが、各公民館など拠点施設では、住民と一体となった世代間活動が継続できるよう、地域の特色に合わせた取り組みを構築していく必要があり、今後取り組むべき課題であると考えます。そういう意味において、この建議書が少しでも地域づくり・人づくりの実践事業に生かされ、地域社会の発展につながることを願うものであります。

舞鶴市第31期社会教育委員会議
会長 福原 習作

資 料 編

①第31期舞鶴市社会教育委員会議審議記録

回数	開催日	審議内容
第 1回	令和2年 5月14日	○委嘱書交付 ①平成30年度社会教育関係団体への補助金の交付について ②今期社会教育委員会議テーマ設定等について
第 2回	令和2年 8月 3日	○講演 演題 夜久野の郷づくりと公民館活動 ～社会教育の力でできること～ 講師 福知山市夜久野地域公民館 館長 大本 夏代 氏 ①講演を終えての意見交換 ②集いの場のあり方について
第 3回	令和2年10月 5日	①集いの場のあり方について 前回意見とりまとめ ②仕掛けづくり方向性、関係する方々の意識の持ち方について ③アンケート調査について
第 4回	令和2年12月23日	①仕掛けづくり方向性、関係する方々の意識の持ち方についてまとめ ②建議中間報告
第 5回	令和3年 3月26日	高浜町和田公民館視察及び意見交換会 ①施設見学 ②館長から事業等紹介 ③意見交換会
第 6回	令和3年 5月21日	①令和3年度社会教育関係団体への補助金の交付について ②和田公民館視察に関する意見交換
第 7回	令和3年 8月 3日	①和田公民館視察後の意見交換取りまとめ ②社会教育委員モデル事業について
	令和3年10月20日	社会教育モデル事業実施
第 8回	令和3年11月16日	① 社会教育モデル事業について ② 建議案について
第 9回	令和4年1月24日	建議案について
第10回	令和4年2月17日	教育長報告会

第11回	令和4年2月22日	市長報告会
第12回	令和4年3月22日	来季社会教育委員会議テーマについて意見交換

*引用・参考文献

- ・牧野篤 「公民館をどう実践していくのか - 小さな社会をたくさんつくる②」
2019年 東京大学出版会

②第31期舞鶴市社会教育委員

(任期:令和2年4月19日~令和4年4月18日)

No	氏名	選出区分	備考
1	江上 直樹	学識経験者	
2	大泉 邦暉	社会教育関係者	
3	龜井 貴子	学校教育関係者	
4	川上 精一	社会教育関係者	
5	谷口 英子	家庭教育関係者	副会長
6	田中 美香子	社会教育関係者	
7	畠中 好野	家庭教育関係者	
8	福原 習作	社会教育関係者	会長
9	藤村 文美	社会教育関係者	

③今日における世代間のつながりづくりについて 全国的傾向参考資料

【社会教育に関する一般的課題と参考事例】（*江上社会教育委員提供資料抜粋）

ー優良公民館表彰から見るポイントー

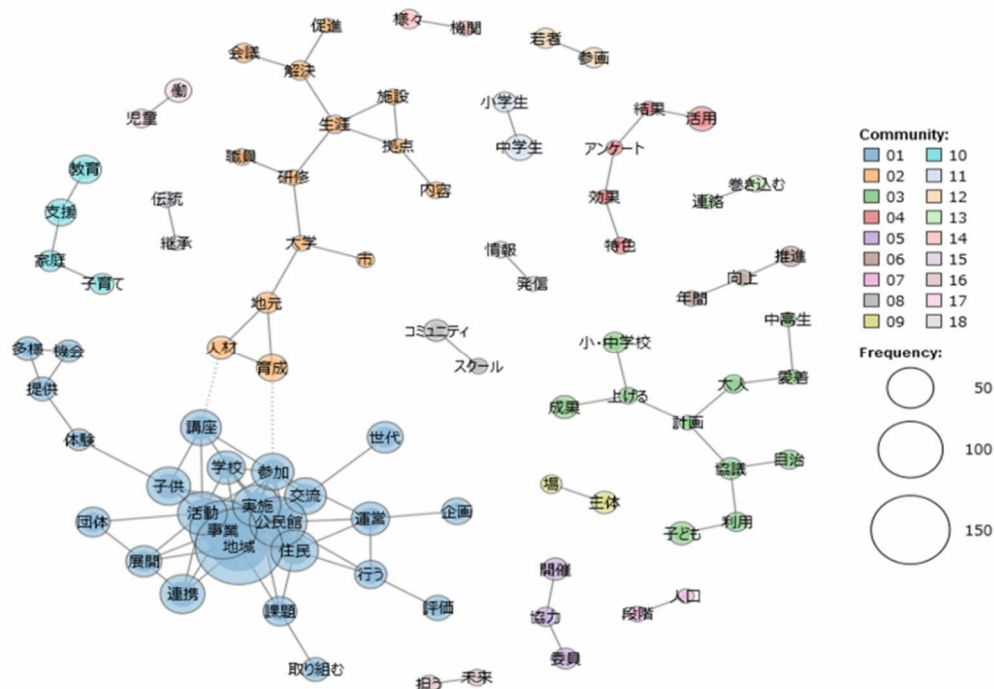
<2018年度公民館の概要 複合語リスト>

順位	複合語	スコア
1	地域住民	1286.0
2	高齢者	455.6
3	地域づくり	410.4
4	公民館活動	329.3
5	地区公民館	283.5
6	地域課題	270.6
7	公民館事業	155.4
8	まちづくり	118.0
9	参加者	115.3
10	活性化	105.9
11	社会教育	104.0
12	子供たち	100.1
13	学習活動	97.5
14	地域団体	94.7
15	地域人材	80.6
16	地区住民	76.5
17	中央公民館	70.1
18	地域社会	66.1
19	地域コミュニティ	66.1
20	環境づくり	59.6
21	地域活動	59.5
22	地域活性化	52.8
23	地域行事	51.7
24	地域交流	51.6
25	利用者	49.9
26	高齢化	49.4
27	12公民館	48.3
28	保護者	47.4
29	世代間交流	37.6
30	学習会	37.6

順位	複合語	スコア
31	地域資源	37.5
32	公民館まつり	37.1
33	市民センター	36.2
34	受講者	36.0
35	健康づくり	35.4
36	少子高齢化	33.9
37	高齢者大学	33.6
38	住民同士	33.6
39	学習機会	33.5
40	人づくり	32.6
40	生きがいづくり	32.6
40	居場所づくり	32.6
43	地域づくり活動	29.7
44	社会教育振興事業	29.6
45	須賀公民館	29.5
46	住民参加	28.3
47	地域事業	28.1
48	事業運営	27.6
49	伝統文化	27.6
50	地域リーダー	26.9
51	自然環境	26.5
52	体験活動	25.7
53	学習支援	24.9
54	平成29年度	24.7
55	仲間づくり	24.4
56	地域づくり委員会	24.3
57	課題解決	24.1
58	学習講座	23.6
59	公民館報	23.4
60	世代間交流事業	22.7

順位	複合語	スコア
61	各種講座	21.8
62	地域づくり講座	21.3
63	活動事業	21.2
64	ボランティア活動	21.0
65	家庭教育	20.3
66	外国人	20.1
67	公民館講座	20.0
68	公民館利用者	19.6
69	活動拠点	19.5
70	実行委員会	18.9
71	社会教育活動	18.9
72	人口減少	18.8
73	交流会	18.8
74	地域振興会	18.7
75	交流事業	18.4
76	参加者同士	18.3
77	公民館長	18.3
77	清水西公民館	18.3
79	地域間交流	18.2
80	矢越地区	18.1
81	高齢化率	17.9
82	指定管理者	17.7
83	地域振興	17.7
84	支援者	17.6
85	中原市民館	17.6
86	協議会	17.4
87	教育活動推進事業	17.2
88	市民活動	17.1
89	各種事業	17.0
90	者社会参加活動	16.6

<2018年度公民館の概要 共起ネットワーク>



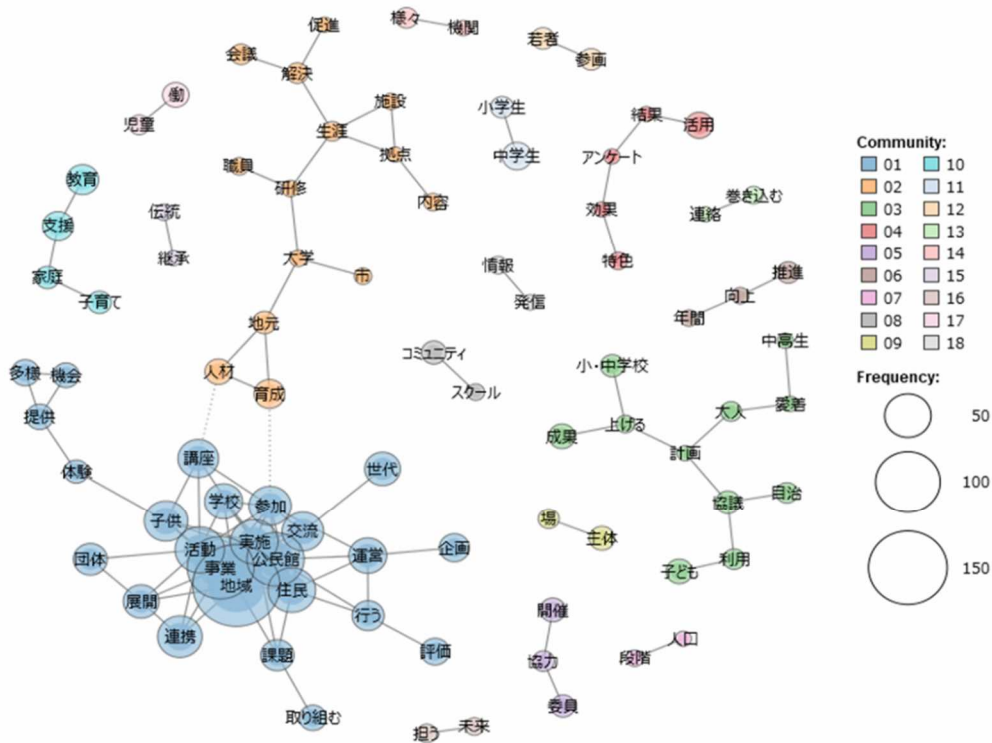
<2019 年度審査委員評価コメント 複合語リス>

順位	複合語	スコア
1	地域住民	461.50
2	地域づくり	323.46
3	地域課題	199.81
4	子供たち	181.23
5	高齢者	142.29
6	公民館活動	97.07
7	体験活動	80.85
8	世代間交流	76.88
9	公民館講座	74.60
10	地域ぐるみ	72.66
11	地域学校協働活動	62.53
12	講座参加者	61.92
13	学習機会	53.50
14	事業展開	50.30
15	地域活動	43.50
16	地域づくり講座	42.84
17	地域団体	41.28
18	運営委員会	40.37
19	子育て支援事業	40.32
20	交流事業	39.34
21	地域住民参加	39.04
22	協働	38.54
23	地域課題解決	38.23
24	住民同士	38.11
25	自治会	37.25
26	地域コミュニティ	36.82
27	公民館利用	34.40
28	公民館運営	34.38
29	交流活動	32.45
30	事業評価	32.30

順位	複合語	スコア
31	まちづくり協議会	31.97
32	人づくり	31.83
33	参加者	30.57
34	世代交流事業	29.93
35	企画運営	28.05
36	家庭教育	27.77
37	世代間交流事業	27.06
38	公民館利用者	26.01
39	学習支援	25.20
40	家庭教育支援事業	24.98
41	人材育成	24.77
42	地域社会	24.12
43	事業計画	23.62
44	教育資源	23.57
45	世代交流	23.02
46	受講者	22.84
47	子育て世代	22.35
48	継承活動	22.13
49	地域学校協働本部	21.79
50	事業企画検討会	20.52
51	教育事業	20.43
52	地域資源	20.29
53	高齢化	20.25
54	つながりづくり	20.13
55	活性化	19.78
56	家庭教育支援	19.74
57	地域学習	19.72
58	事業参加	18.80
59	出前講座	18.71
60	事業運営	18.47

順位	複合語	スコア
61	地域協働事業	18.41
62	少子高齢化	17.69
63	伝統文化	17.64
64	指導者	17.36
65	住民交流	17.21
66	公民館まつり	16.65
67	企画段階	16.56
68	地域協働	16.55
69	指定管理者	16.53
70	事業内容	16.36
71	公民館地域活動推進会	16.11
72	公民館運営委員会	15.20
73	運営者	15.02
74	参加率	14.95
75	高齢化率	14.86
76	住民支援	14.74
77	講座運営	14.63
78	教育委員会	14.39
79	文化交流事業	14.17
80	高齢者教育	14.03
81	地域発信事業	13.91
82	高齢者向け	13.89
83	防災関連講座	13.55
84	活動内容	13.49
85	居場所づくり	13.42
86	関係団体	13.20
87	地域まつり事業	13.01
88	地域参画支援事業	12.82
89	地域コミュニティ形成	12.78
90	文化祭	12.73

<2019 年度審査委員評価コメント 共起ネットワーク>



2018年度 公民館・最優秀取組事例

3. 参考事例

50	広島県	ひろしましふるたこうみんかん 広島市古田公民館	本公民館は、昭和63年に開設。高齢化率19.0%、年少人口15.3%と、広島市では比較的世代的な均衡がとれたエリア特性がある(広島市全体ではそれぞれ24.6%、13.9%。平成30年3月末現在)。地域から愛され、地域と共に成長する公民館を目指し、住民が集い、学びあい、結びあう場となるよう、年間400回を超える活動・事業を展開している。 このまちにくらしたいプロジェクトは、古田中学校の生徒と古田地区住民が一緒になって、30年後の地域の暮らしを考え、行動するため、平成25年度に立ち上げた事業として行っている。中学生の発案で「みんなが幸せに使える公園」をテーマにワークショップをしたり体験イベントを実施したりするなど、公民館が多世代の居場所づくりの拠点となり地域住民の絆(きずな)が深まっている。
----	-----	----------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



文部科学省「過去(第67~71回)の表彰録一覧」 https://www.mext.go.jp/content/20200309_mxt_chisui02-10000060_1.pdf 閲覧日: 2020/06/01

このまちにくらしたいプロジェクトfacebookページ <https://www.facebook.com/konomachipro/> 閲覧日: 2020/06/01

2019年度 公民館・最優秀取組事例

3. 参考事例

【住民と共に歩む地域づくり】-宮城県白石市斎川公民館-

キーポイント: 若者を巻き込んだ住民(地域)主体の地域づくり

みんなで学び・考え、持続可能な地域を実現するための連続講座

1. 事業の内容・工夫

(1) 実施主体
・斎川まちづくり協議会
【斎川公民館の指定管理を受託】

(2) 連携・協働団体
・白石市教育委員会生涯学習課

(3) 実施内容
・地域課題の情報共有(話し合い)
・地域住民への意向調査
・地域住民による将来像の検討
・地域若者会議の開催
・地域住民参画の事業計画

2. 事業のきっかけ(取組の背景)

■地域の現状と課題
(1)人口減少・少子高齢化
・斎川地区の人口の推移は20年前と比較して、35.7%減少し、高齢化率は、13ポイント上昇。
(2)小・中学校の閉校と事業の反省
・学校の閉校を機に企画した「こころ作り体験教室」は大盛況。しかし、イベントにだけ注力しても地域の持続性は高まらず、地域の諸活動等の保存・維持、生活不安など地域の行く末に大きな危機感を抱く住民が増加した。そこで、連続講座「きらり斎川築アップ塾」を開催し、皆で一緒に学び考え歩いていくことに決めた。

■地域住民のニーズ
(1)中学生以上全住民アンケートを実施
・多くの住民から「地域住民の抱える課題やニーズをしっかりと把握すべきだ!」と声が集まり実施。
回収率: 85.5% (回収823/配布963)
アンケートの結果から...
・将来への不安が浮き彫りに! 行事等の工夫・改善が必要だと判明。
・若者の声をもっと丁寧に聞く必要があると判明。 などなど...

3. 担当者の所感、参加者の声

■担当者の所感
・若者会議の参加者が、自主的に地域行事の手伝いをするようになり、一部の行事では、企画・準備・運営を担っている。また、全体として行事への参加者が増えたことは、以前より地域の人々の動きや交流が活性化してきたと実感している。
■参加者の声(若者の声・20歳代女性)
・「何かお手伝いすることがあればいつでも言ってください!」
・「斎川・白石を更に良くしたい!」

4. 今後の展開
・公民館として地域内の課題やニーズを更に深掘りし、今後も学びの場、小さな挑戦の場を設け、住民とともに地域の課題を解決しながら、住民の自己肯定感を高める。

文部科学省「第72回(令和元年度)優良公民館表彰 特色ある事業(取組)一覧」
https://www.mext.go.jp/a_menu/01/08052911/mext_00479.html 閲覧日: 2020/06/01

④社会教育委員会議議論内容

○集いの場のあり方

議題 皆がつながる集いの場のあり方とは

R2.8.3社会教育委員会議



○関係する方々の意識の持ち方

これからの集いの場のあり方（関係する方々の意識の持ち方）

R2.10.5 社会教育委員会議

関係する方々に大切なもの

- ①意識する
目的を持ち、思いを持つこと
- ②働きかける
言葉などを媒介に、縁を築くこと
- ③見据える
緩やかに、支えること

集いの場

あり方、方向性、関係する方々の意識の持ち方を定義

人をつくり、地域を創造する

目指す人材像=人との関りを大切にし、つながりを創り出すことができる人の育成
社会教育は理屈ではなく、今の時代に必要の人材を作り出す必要不可欠なもの

委員意見交換（大切にしていること）

（教師、講師関係者）

- ・音楽をきっかけに人とつながってほしい、その経験が音楽であれば嬉しい
- ・時代に合致した、伝統継承の方法を皆と会話することで同じ方向を向けた
- ・集う人の期待に沿えるような講座ができればと考えている
- ・子ども達に思い出に残るような体験をしてほしい
- ・様々な人と体験を通じ、困った時は助け合い、人とつながることを学んでほしい
- ・子ども達の声を地域に届け、地域の方を元気にしたい
- ・地域のために住民と一緒に活動できる子どもを育てたい
- ・地域への思いを持ってもらいたい

（公民館関係者）

- ・若い人がつなげられないか考えている
- ・小さな頃から公民館事業に参加し、ふるさとを思うきっかけになってほしい
- ・公民館で様々な人に多くの経験をしてほしい
- ・親が子に多く経験をさせたいと願っている、子どもへの支援がこれから必要
- ・地域と公民館のつながりは大切にしている
- ・人の触れ合いを大切にしている
- ・継続性のある事業が大切だと思っている
- ・プラス@のメリットのある事業を考えている

（子育て支援関係者、地域実践者等）

- ・地域行事で皆に役割を持たせることで主体性を育て、褒めることで肯定感を得る
- ・下の世代に全て権限を与え、リーダーを育成していくことが大切
- ・経験した思いを周囲に伝えることができれば環境を変えられると思う
- ・助け助けられる経験を沢山し、両方理解し、考え方が変わり、助け合えればと思う
- ・サービスの受手ではなく、自分でできることを気付いてほしいと思っている
- ・公民館で昼休みコンサートをさせてもらっているが、皆生き生き楽しそうにしている姿をみるととても嬉しい
- ・自らの経験から人に寄り添えることを考えている、小さな交流がつながりになれば
- ・人のためになることが自分の糧になると思い人に接している

（全委員）

- ・かけられる言葉は大切だと思う
- ・子どもとともに元氣になれたと言われ嬉しかった
- ・明るい雰囲気です声をかけられると嬉しい
- ・挨拶一つでまたそこに行こうと思う
- ・スーパーのレジに並ぶ時、感じが良いレジ打ちの方の所に行こうと思う
- ・コミュニケーションがうまくできることが成功につながる
- ・相手の話を聞き、対話になることが大切、意外な発見でつながる可能性も
- ・自分だけが良いと思っても、継続しない、周りの人も同じ気持ちが必要
- ・担い手を育成するためには、口出しせず見守ること

○これからの舞鶴版社会教育の仕組み

社会の変化に対応する社会教育の仕組み

進歩する情報技術の活用

- ・シーンに合わせICTを使い分けながら、多様なつながりを生む環境づくり。
- ・コロナ禍においても、ICTを駆使するなど、つながりを絶やさない。

多様化するニーズの把握と企画実行

- ・アンケート調査や地域に入る機会を利用して多様化するニーズを掴んでいく。
- ・自ら実現が難しくても、出来る人を見つけ、巻き込んでいく。

働き方に対応した人材巻き込み

- ・再就職で長く働く人が増えたため、60代世代を巻き込むのが難しくなっている。75歳以上が活発に活動している例が多いので、まずは70代後半の世代を巻き込み、フォロワーとして育成していくことも必要。
- ・休日、夜間は公民館等の利用が少ない。働き方改革の推進などで余暇時間が増加している傾向から、休日、夜間の時間帯にニーズに合致した講座等を開催することで、現役世代を含む利用者が増えれば活性化につながる可能性もある。

人材育成、公募、斬新な企画

- ・情熱、やる気のある人を公募していく。
- ・先を見据えた人材の育成と配置が必要。
- ・多様な人を巻き込むための斬新な企画、遊び心のある催しが必要。

集いの場の評価

- ・コロナ禍、価値観の多様化等、多様な世代が集うことが難しい時代に、現に集う人達は、何を求め喜ばれているのか、学びが人をどの様に成長させていくのかなど、そのエピソードを大切にしていくことが今後必要。
- ・上記のことを踏まえたうえで、稼働率、利用率だけを評価するのではなく、分析する評価を変えていく必要がある。そうすることで、利用しない人を引き込むきっかけになるのではないかな。

多様な団体との協働

- ・住民と協働して活動していくのに必要なこと
 - ゆるやかな関係の中で誰でもできる活動であること
 - 活動が短時間で具体的であること
 - 役割の明確化、意思疎通を図り、他人の言動などを批判しないこと
 - 先を見据えて活動すること
- ・社会教育委員モデル事業を実践する中で、それぞれの委員が持つフィールドや実践経験を協働してつなげていくことで、少数ではできないことでも、多様な連携により様々な事柄、多角的な方向からの人材育成、つながりの可能性が生まれる。

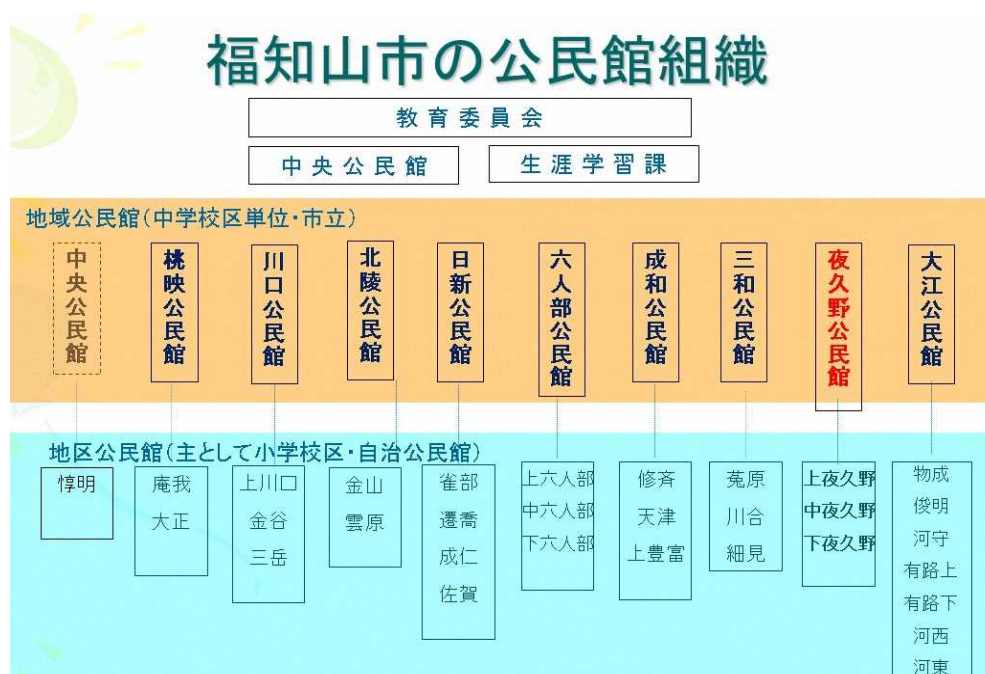
社会が変化していくなかで、人のニーズ、情報技術は多様化、発展していくが、そこに対応していく力は、結局、そこで関係する人の情熱、思い、やる気、つなげていこうとする力が社会の変化にも対応できる社会教育の力である。

④事例調査

① 夜久野地域公民館

- 講演から学ぶ 令和2年8月3日
演題 「夜久野の郷づくりと公民館活動」
～社会教育の力でできること～
講師 福知山市立夜久野地域公民館
大本 夏代 館長

1 福知山市の公民館組織



2 夜久野地域について

- ・人口 3,211人 世帯数 1,492世帯
児童生徒数(小学生)93人 (中学生)40人 (保育園児)52人
- ・高齢化率51.4%

3 公民館の役割

自分で考え、
自分の地域を作っていく**主体**を育む
のが
公民館の役割

住民の自治能力を育むための学習の場

4 夜久野公民館活動

(1) 活動事例一部

平成25年度
「世代をつなぐまちづくり・郷づくり」
「企業部」活動紹介

夜久野町まちづくりの企画担当
「企業部」の活動発表

参加者46人

若い人たちの活動を「まちづくり」として、多くの人に認識してもらいたいことがこの発表での成果。さらに、若い人自身に「まちづくり」への関わりを喚起したことが、役に立っています...

平成27年度（第1回）
「会議のお悩み、これで解決」
～やさしい会議運営術～

講師：青木将幸さん（ファシリテーター）
多くの人の意見を反映できる力量をつけたいと、会議運営について実技研修しました。（参加者25名）

青木将幸さん、プロのファシリテーターです。

平成28年度
「夜久野のみらいを語る集い」②
～子どもたちとともに未来を考える～

福知山公立大学生による地域アンケート調査の中間報告。

夜久野学園8年生による地域活性化のプラン「夜久野未来予想図」の発表。

平成28年度
「まちづくり振興大会」

参加者120名

夜久野でがんばっておられる若い起業家の活動発表。お二人の活動の事前の計画と賛成、そして熱意に会場は温度も上がりました。

男性料理教室 IN 夜久野学園
「男性料理教室」の受講生が、夜久野学園5年生の調理実習『ご飯とみそ汁』に参加。

「男性料理教室」受講生が、子どもたちの実習を様々な知識を持って支援。普段とはひとおし違う受講生の姿が素晴らしい!

音楽サロン②
サロン支援 & 交流 & 文化体験 & 食生活

「第九」演奏会でござんがさん、MAP協賛楽団の協力により実現。

名曲喫茶

(2) 事業の方向性

○学習と連帯の輪づくり

夜久野地域公民館の事業は、そこに参加する住民が学びを得ることで、目の前に見えている課題や現実だけではなく、他の可能性への気づきを通じて、自らができることを促すことで、個人が成長し、そのことが仲間にも好影響を与えながら地域の財産になるよう活動につなげています。

○地区公民館の役割

各公民館の活動が、地区単位ならではの地域に根ざした活動につながるような取り組みを進めています。

(3) 事業に関係する職員として

夜久野公民館では、職員一人一人が以下のような意識を持ちながら、事業を実施しています。

○地域住民、さらには地域が今後どうなってほしいか、将来的なビジョンを持つ。

○日頃から、あんなこと、こんなことが出来たらとアイデアを書き留めている。

○困難な事業であっても、巡ってきた実現のチャンスは積極的に掴み取る。

○参加者が参加しやすい雰囲気づくり、ユニークな事業づくりを心掛ける。

○多様な世代が参加しやすい事業づくりを心掛ける。

○常に未来志向で考える。

○他人のアイデアは否定しない、できる方法を考える。

② 和田公民館

○視察から学ぶ 令和3年3月26日

「高浜町和田公民館（うらら）」人づくり事業視察及び意見交換会
講師 村宮館長

1 館内見学

和田公民館（うらら）



○公民館事業、地域の様子など、可視化が施されている

○休憩場所、落書ボードなど、住民が気軽に集い、歓談できる工夫が施されている

○利用しやすい備品類、若年者のニーズを捉えた貸部屋を備えてある

2 令和2年度の主な公民館事業

30講座 83回 1,094人 参加者数 14,273人（令和元年 21,720人）

世代間交流や地域愛を育てる事業中心（参加者（子供等）が何かを感じ学ぼうとする態度を芽生えさせたい）
地域課題解決につながる事業を

講座一例



○世代間交流や地域愛を育てる事業中心

交流することで参加者が何かを感じ、学ぼうとする態度を芽生えさせる

○地域課題解決につながる事業を

インバウンドに対応する（子どものイングリッシュデイ）

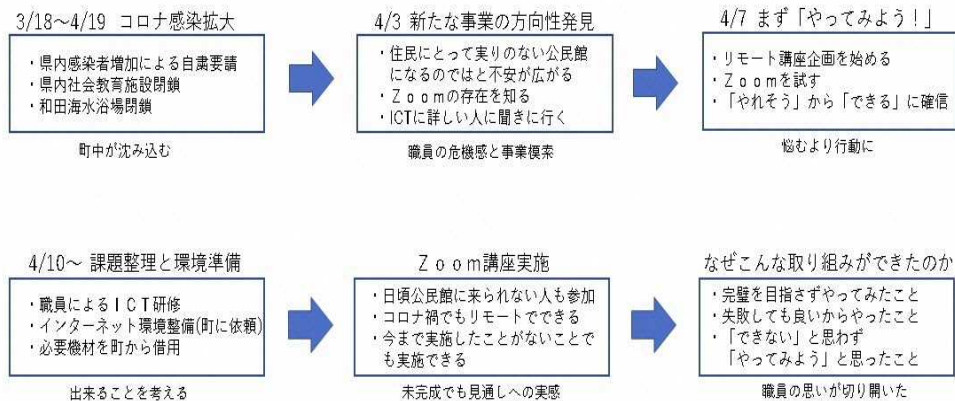
ブルーフラッグ取得に関わる（海の生き物調査等）

Etc

コロナ禍における事業の工夫

オンライン講座の実施

ICTを活用するに至った経緯



館長（リーダー）と職員（フォロワー）の住民への思いが、公民館事業を改革し、創り上げている

3 館長、職員が考える公民館事業

① 集いの場の役割

キャッチフレーズ「笑顔が集う町の縁側」

○「つどう」・・・生活のなかで気軽に人々が集うことができる場

○「まなぶ」・・・自らの興味関心に基づいて、知識や技術を学ぶための場

○「むすぶ」・・・地域のさまざまな機関や団体との間にネットワークを形成する

② 事業の考察

常に世代間交流や地域愛を育てる事業を中心に考え、地域課題解決につながる

事業を心掛ける

- P D C Aサイクルの実施を徹底
- 住民ニーズは、地域に入り、住民との会話から掴み取る
- SNSによるこまめな情報発信
- 公民館事業だけでなく、地域の行事、人、季節の変化も情報発信する
- 女性職員など様々な目線から事業考察

② 館長、職員の意識

- 人と人をつなげるのが公民館職員の役割だと思う
- 意外なものに人気が出るため、アイデアは否定しない
- 新たな事業を考察するときは、完璧を目指さず、とにかくやってみる
- 子どもには本物を体験させていく
- 多くの人との関係を広げるためにも公民館には沢山来てほしい、そういう意味で公民館は住民をつなぐ入口としてのカルチャーセンターでも良いと思っている

③ 今後の課題

- 中年層や男性を取り込むため公民館や事業の工夫が必要
- 「オンライン講座」のためのZ o o mなどアプリのインストール周知徹底